

楓

ふうえん

園

特集

大学院

スペシャリストへの さらなる歩みを

NEWS 中高部／小学部／東洋英和幼稚園／大学付属 かえで幼稚園／後援会／学院 ● 5

史料室レター ● 11

英和の日々 ● 12

この人に聞く 岩倉 暢子 ● 13

聖書の言葉／訃報／学院NEWS ● 14

英和星空探訪／同窓会より／お知らせ ● 15



高大連携ミャンマー研修（2015年8月9日～17日）

高等部からは生徒6名と北崎勝彦教頭、大学からは学生9名と滝澤三郎教授、そして東京大学等の学生7名が参加し、国際支援や国際協力のあり方について学びました〔写真：インレー湖近くの僧院付属の学校にて〕



スペシャリストへのさらなる歩みを

「求めなさい。そうすれば、与えられる。
探しなさい。そうすれば、見つかる。
門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」

マタイによる福音書 七章七節

新しい時代に大学院で目指すもの

大学学長 池田 明史

六本木校地にある大学院は、社会人・大学新卒者を対象とした男女共学の夜間大学院です。
今号の特集では、一〇名の院生・修了生から寄せられた「英和の大学院」で学ぶことを選んだ経緯、在学中の学び、修了後のさらなる歩みを通して、大学院の魅力をお伝えします。

現在の日本社会は、周知のように、高齢化・少子化による人口構成の変化、社会全体の高学歴化など、過去に経験のない新しい事態に直面しています。高等教育機関としての大学も、その変化に敏感に対応することが必須になっていきます。私たちは、大学院の在り方に次のような特色を与えることで、新しい時代に対応していきたいと考えてきました。

特色の第一は、さまざまな年齢層、キャリア層に「開かれた」大学院であることです。一般に大学院は学部卒業者が修めた学問のさらなる追究の場としているのに対し（最近はそのような志望者も徐々に増え、また受け入れてもいません）私たちの大学院は、基本的には社会人、つまりすでに職業的なキャリア上にある方々に向かつて開かれています。職業上必要とされる資格の取得はもちろん、新しい分野に挑戦しようとする方、子育てで暫く仕事を中断していた方が、職場復帰を図る際の基礎力のアップデートにも利用していただけるよう、平日の講義やゼミは原則として夜間に設定し、土曜日は昼間のカリキュラムとなっています。さらに、本学が女子大学であるにも関わらず、大学院では男性

にも開かれており、過去のキャリアが短大卒であるような方でも、条件次第では積極的に受け入れています。また留学生も歓迎しています。

もう一つ、お伝えしたいことがあります。本大学院では、ある現場で経験を積んだ学生がその現場で培った特定の知見やノウハウは、「教える」側にいる教員の知識範囲を超えることもあり得る、という点です。それは「教える」と「学ぶ」ことが両面的な行為であること、最も刺激的な場面でもあります。ゼミでも講義でも、「教える」と「学ぶ」ことが一瞬間転する瞬間でもあるからです。教員は「教える」ことが「学ぶ」ことでもある、というスリリングな体験をしますし、学生の方でも同じです。それは、こうした大学院ならではのことで、決して否定されるべき事態ではないと私は信じています。

こうして、さまざまなキャリアを持ち、それぞれに異なる経験を重ねた多様な属性をもつ人々が、私たちの大学院で、時間と空間を共有することができる、というのは、これからの日本、大きく見れば世界にとって、とても大切なことである、と信じます。

大学院の学びも英和で

人間科学研究科修士二年

岩田 侑子さん

母と祖母が英和出身、そして私も幼稚園から小中高大そして大学院すべてが英和の生粋の英和っ子です。友人たちには履歴書が圧巻だねと笑われるのですが、同時にそこまですと英和で良かったの？と尋ねられることも多いです。院受験の面接時に篠原先生にも「他は受けないのか」と尋ねられましたが、私の答えは「英和を落ちたら考える」でした。

大学は心理が英和にもあることから院内推薦で進ませていただきましたが、大学院進学に関しては他の学校を受験することも考えました。ですが英和の大学院は臨床において重要な実習が充実していること、人生経験が豊富な社会人院生が多いこと、そして何より、学部の方からお世話になっている個性豊かな先生方の下で学んでいきたいと思ったことが一番の決定打となり、英和一本で受験をしました。

無事に一発合格させていただいた現在、教育相談機関で実習をさせていただいておりますが、学ぶことは多いと痛感する日々です。



六本木校地 本部・大学院棟の前で

人間科学研究科修士一年

吉田 久仁子さん

もう一度「英和で勉強したい!!」という思いに至らせたのは東日本大震災でした。原発から南に四三・五km南にある、いわき市にて園長をしております。目に見える分には以前の生活を取り戻し、子どもたちは制限なく園庭で外あそびを楽しみます。しかし、目に見えない放射線不安は、今も続きます。経験と勘に頼るだけの保育では通用しない現実直面したのです。

仕事に追われながらも、週末は学生として英和で学ばせていただいております。そこには、学びから得られる知識だけではなく、同じ思いを持った仲間との出会いがありました。それは、私にとってこの上ない喜びです。

六本木に来ると、短大時代の芝先生、ジュティーン先生、飯島先生をはじめとする諸先生と非常勤の松居直先生から教えていただいた当時の記憶がよみがえります。三〇年という時を経ても、その時代の香りは受け継がれていると確信いたしました。



清風幼稚園の園児たちと

日々の学びの中で新しい力が与えられ、それは、子どもたちの未来に寄り添う保育者の姿と重なってきております。今は、夢が現実となつて学ぶことの喜びでいっぱいです。

国際協力のために学ぶ

国際協力研究科修士二〇一四年度九月修了

マルケス・ルイスさん

勤務先の高等専門学校では、語学教育に加え、国際交流コーディネータとして、全世界に広がる姉妹校・提携校との交流活動に従事しています。日々変化する国際情勢を考慮しつつ、より良い交流プログラムの提案・実施に努めてきました。その中で、国際支援について学びたいとの思いが募り、東洋英和の大学院修士課程に入学しました。発展途上国の教育システムについての研究を進め、その成果をさまざまな場で発表・活用できたことは、諸先生方の適切かつ厳しいご指導の賜物と心から感謝しています。また、在学中は多くの国際関係学専門家との出会いに恵まれ、意見交換を通して平和教育について強い興味を抱くようになりました。そのため、早稲田大学大学院博士課程に進学し「アジアにおける平和教育」をテーマに研究を深化させることとしました。将来は東ティモールに学校を設立したいと考えています。その夢を実現するために、英和の大学院で学んだことを生かしながら、さらなる努力を積み重ねていきたいと思います。



勤務先の学生たちと

国際協力研究科修士二〇一三年度三月修了

阿部 仁美さん

研究科在学中は都内大病院で臨床検査技師として勤務しながら、以前参加した青年海外協力隊での経験から国際保健医療協力のあり方を研究しました。昨年三月に修了後も、これまでの職場に勤務しながら、次なる国際協力の機会を覗いていましたが、昨秋には、(独)国立国際医療研究センター国際医療協力局が主催する「第五回国際保健医療協力研修」に参加し、ベトナム国を訪問しました。そこで、日本や国連機関が実施する国際保健医療協力の現場を視察し、現地の医療従事者とも意見交換を行う機会を得ました。また、グローバル化の波は我が職場にも到来し、今年に入って、ミャンマーのヤンゴン大学から臨床検査技師の教育に携わる教員が研修に訪れるなど、国際交流が始まりました。アジアの新興国で働く同業者は、いずれも新しい知識や技術の習得に貪欲で、志の高さに感銘を受けました。私にとって英和での学びは、国際協力・交流を行う意義や目的を学術的側面から再認識し、修了後の活動にも自信と喜びを与えてくれる貴重な機会となりました。



研修班のメンバーと (中央が本人)

時を経て学ぶ

人間科学研究科二〇一四年度三月修了

関口 陽子さん

私の所属している修道会は、一六〇年前、異国ポーランドの荒廃した状況下、孤児や売春に携わっていた女性のために創立されました。現在、時代と国は変われども、周囲には「人身取引」によって、同種の苦しみの渦中にいる少女・女性たち（少年・男性含）がおられます。性的搾取の一例を挙げると、彼女らは虚言・甘言によってスカウトされ、最終的に自由を奪われた結果、ビデオ出演の被害者になってしまいます。この人権侵害の内容は「製作物」の撮影・製作・市場取引・販売・インターネット公開・二次、三次利用等を指し、拒否すると違約金が発生するというものです。

私は、修道会入会后、主に子どもを対象に神さまの話をしていました。今現在は、教会活動をしつつ、NPO法人人身取引被害者サポートセンターライトハウスと関わり、相談支援を行っています。大学院で学んだことを大いに生かしながら、相談者の方とお会いしています。



カトリック聖ミカエル教会の前で（右が本人）

人間科学研究科修士二年

瀬川 博子さん

私は社会人になってちょうど三〇年経った節目の年に退職しました。定年まで残り八年近くありましたが、その時間をどうしても新しい挑戦のために使いたいという気持ちが強くなったのです。

実は新しい挑戦のために会社をやめたのは二度目になります。最初は大学卒業後に就職した製薬企業の研究所から出版社への転職でした。大学では生物学を専攻し、研究所ではウサギやラットを使った動物実験に携わり、病理学も学びました。充実した毎日でしたが、段々もつと広く社会とかかわる仕事をしたいと思うようになり、医療・医学分野の編集職に就きました。そこで二〇年以上、雑誌や書籍づくりを担当してきました。転職後、最初に任されたストレス関連の特集記事では、当時、都立駒込病院に勤務されていた河野友信先生にも取材させていただきました。私は両親の死をきっかけに死生学を志すことになりましたが、偶然にも、河野先生も英和の大学院で死生学を教えられていたことを知りました。



日経メディカルにて新米記者時代

再び研究に従事することになりましたが、これまでさまざまな経験を糧に、社会に役立つテーマに取り組んでいきたいと思っています。

国際協力研究科修士二〇一一年度三月修了

松本 栄子さん

二二年間、金融機関にて外為業務に従事しました。これまでの実務経験を学術研究として形に残すために、二〇一〇年四月〜二〇一二年三月迄、国際協力研究科に在学し、研究テーマ「米ドル決済システム構造に見る経済制裁の有効性に関する考察―米国の北朝鮮に対する経済制裁のケーススタディー」として、米国による経済制裁の問題点と非米国系金融機関への影響について考察しました。現在、管理職として外為業務を通じた提案活動、人材育成、拠点運営を担っています。

管理職として求められる判断力、分析力、スピードは、論文執筆に向けた情報収集、分析、文書化するプロセスの中で鍛えられました。また、組織を運営する者として多様性を尊重する必要があるですが、中岡望教授始め知見を与えてくださった先生方、さまざまなキャリアを持つ大学院生との議論を通じて、その素晴らしさを痛感しました。さらに、学術との対話を通じて、金融機関



日本安全保障貿易学会会場にて

の立場から世界を見渡す知見を得られた事は貴重な経験でした。今後は、学会発表を通じた研究活動を継続し、博士課程への進学を目指したいと思っています。

夢に向かって学ぶ

人間科学研究科修士二年

清原 舞子さん

私は幼少の頃から日本舞踊を習い、身体を使って表現することに魅力を感じてきました。日本画家であった姉の影響もあり美術大学に進学し、在学時は「からだの表現とこころの表現」ということをテーマにしたワークショップを子どもたちや大人たち、障がいを持つ方たちともに行ってきました。そこではテキストなどは使わず、そのひと自身の物語やその場で生まれてくる思いに耳を傾けること、そして表現をすることで他者とながら、また居場所を作っていくような作品作りをしてきました。そうした活動のなかで「こころの表現」がうまくできないことから生き辛さを感じている人たちに出会いました。その心理を専門的に学び、支援ができるようになりたいという思いから臨床心理学を学びはじめました。大学院では臨床心理学における実践的な学びと研究をすかたわら、西洋子教授が主宰されている「みんなのダンスフィールド」（写真）にも参加しています。



車椅子の人もそうでない人も、1歳児からおばあちゃん世代まで、みんなが手と手を合わせて踊るインクルーシブな表現の場。石巻や松島など被災地でもワークショップを行っています

行政に生かす学び

人間科学研究科

二〇一三年度三月博士号取得

石濱 照子さん

現代社会における行政機関に任された日常生活上の課題は、個人主義によるニーズの多様性、自己決定の尊重、個人情報保護などにより複雑化、多様化し、もはや行政機関では担いきれず、産学公連携が強調されています。

こうした状況の中で、私は保健師で地方公務員の管理職（東京都中野区健康福祉部副参事）という職責を果たすべく自己研さんのために大学院に入学しました。人間科学研究科で死生学を専攻し、学際的に学び、地域住民が「自らの生き方や死に方」について熟考できるような環境を整備し、住民が住み慣れた地域で生き生きと暮らすための施策策定に生かそうと考えました。

修士課程では、高齢者における喪失体験が抑うつ傾向にもたらす影響について実証的研究を行い、必要な「Social supports」が欠如している実態を明らかにし、施策展開に反映しました。博士課程では、自殺やうつ病の広まりを含め、地域社会で顕在化した児童虐待や引きこもり、ホームレスの増加などを「現代の社会病理現象」と捉え、その抑制策について「Social model」の視点から研究を進め、「Social capital」を意識した地域社会での新たな緩やかなネットワークの構築に着手しました。

このように、大学院で学んだ知識の習得をはじめ、先生方による研究等に関するご指導や、同窓生である異業種の方々との出会いにより得られた財産を



さらに発展させながら、今後も研究と実践を関連させ、自らの社会での役割を果たしていきたいと思っています。

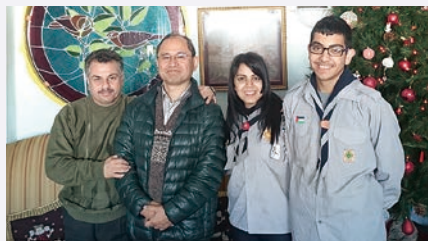
国際協力研究科修士一年

齋藤 真哉さん

私は板橋区教育委員会で社会教育主事として勤務しています。私の仕事は、区の教育計画の策定、社会教育会館の運営、区民の教え合い・学び合う活動の支援などです。

一九九一年に湾岸戦争が起きた時に、戦場の映像を見たお子さんが「お母さん怖いよ！うちにもミサイルが飛んで来るの？」と怯えたという話をきっかけにして、板橋区で平和を実現するための学習を区民と共同で続けてきました。その後、中東やアフリカなどの紛争地を訪れて現地の人々の声を届けたり、アフガニスタンの方を板橋区に招聘して交流を図り、それを『平和の絵本』にまとめました。しかし、暴力の被害を受けた人々への共感

だけでは紛争の問題を解く鍵を得られないことが分かり、独りで悶々としていたところ、東洋英和で池田明史教授からイスラエル・パレスチナ問題を解くためにご指導をいただくことを知り、喜び勇んで大学院の門を叩きました。そこでは、私が積み上げてきたものは叩き壊されましたが、探究の厳しさと指導の有難さを痛感しました。また、他の先生方と院生からの学びにより、学ぶことの楽しさを実感しています。



パレスチナのクリスマス（左から2人目が本人）

大学院で学んだことは直ちに板橋区の平和学習に生かします。修了後には、研究の成果を社会教育の地域研究に応用したいと思っています。そして、イスラエル・パレスチナ紛争の解決の一助になれば幸いです。

大学院からのご案内

● 大学院の授業を見学できます

大学院の授業を理解していただくために、実際の大学院の授業に参加できる機会を設けました。期間中、何科目でも見学が可能です。見学いただける授業は、ホームページにてお知らせいたします。

授業見学期間：一〇月十二日（月・祝）～一〇月一七日（土）、十一月三日（月・祝）～十一月二十八日（土）

● 一科目から学べる制度があります

正規に入学しなくても一科目から学べる科目等履修生制度があります。両研究科の科目を履修することができます。

出願期間：二月十二日（金）～二月十八日（木）、面接日：二月二十七日（土）

● 入試の筆記試験科目を一科目に変更しました（人間科学領域・幼児教育コース）

人間科学領域と幼児教育コースの入試の筆記試験科目のうち、従来実施していた専門分野試験を廃止し、二〇一六年度前期入試（一月三〇日（土）実施）より、小論文（各分野・コースの基礎的理解度を問う問題を出題）のみに変更しました。当日、面接試験も行います。

● 大学院入試説明・相談会にご参加ください

大学院の教育研究内容や入試制度について詳しくご説明いたします。当日は、研究分野ごとに分かれて、担当教員や院生との個別相談も行っております。同時に授業見学やこころの相談室・図書見学ツアーも実施しています。

入試説明・相談会：一〇月一七日（土）、十一月二十八日（土）いずれも一三時から開始です。

新短期留学制度を活用した生徒たち

中高部 国際交流担当 中田 典子

英語圏の高校に一学期間留学する「短期留学制度」が高等部にできました。この制度を利用して、選ばれた一〇名の高校生が二〇一五年一月〜三月の二、三か月間、カナダ・アメリカ・オーストラリアの協定校で学ぶ機会を得ました。現地の高校生や世界各国からの留学生たちと生活をともにし、英語力を磨き、視野を広めることができたことと思います。そして、五月二八日（木）中学3年生〜高校2年生のロングホームルームで報告会が行われました。流ちょうな英語で自信たっぷりにプレゼンテーションする姿に、その成果を実感いたしました。



報告会のプレゼンテーション

「生徒たちのレポートより」

高等部一年 H・Yさん

Pella Christian High School というアメリカ・アイオワ州の高校に三か月間留学しました。学校では色々な学年の人が混ざった科目を選択したので、たくさんの人と親しくなりました。模擬裁判では選抜チームに選ばれ州大会に出たところ、私たちのチームがアイオワ州で一番になりました。私にとってもとてもよい経験になりました。またアメリカ文学の授業では、アメリカの独立時代の本を読んでクラスでエッセイを書いたり、テストがありました。二月からは合計四〇ページ以上にもなるキャリアについてのレポートを書きました。私は国際公務員について調べました。大学の教授や国連の方など四人の方にインタビューをしたり、リサーチをしたり本当に大変でしたが、四〇ページも自分で調べて書いたエッセイを見ると、とても嬉しく自信ができました。

春休みにはボランティアで貧しい人のために家をつくるミッションに参加し、メキシコ国境近くのテキサスの町へ行きました。現地では家づくりを土を掘るところから始めました。家を建てる時、電動のこぎりや釘を打つピストルのようなものなどを使ったり、屋根に上って屋

根を作ったりとても危険で、屋根から落ちてしまったり、やけどをしたり大変でした

がとても充実したものでした。その家に住む予定の家族とも親しくなる機会がありました。英語が全く通じないため、スペイン語で会話をしました。家族は一〇人家族なのですが、私の部屋よりも小さいトイレに住んでいて本当に見えて心が苦しかったです。そのため大変な作業もこの家族のためだと思い、最後まであきらめずがんばることができました。この旅は私にとって、とても大きな大切なものとなり、この留学はこのミッショントリップのためだといつても過言ではないと思いました。



模擬裁判当日に選抜チームのみんなと



テイクアウトのピザをホストファミリーと



建築中の現場にて



自分たちの家の完成を楽しみに待つ子どもたち



春休みのキャンプで



Athletic Day のひとこま



日本語クラスの先生とクラスメイト



一緒に留学したYさんと

高等部二年 M・Mさん

Loreto College というオーストラリアの高校に留学しました。 Loreto College は一四〇年の伝統を持つキリスト教の女子高ということもあり、東洋英和と雰囲気がとても似ていました。日本の高校では履修できない科目もたくさん取ったので、毎日の授業が本当に新鮮で楽しかったです。また、オーストラリアでは学校ですべての勉強を学ぶという精神が生徒たちに当たり前に身につけているからこそ、どんな授業に

参加しても皆一生懸命で、そんな姿を見て「新しいことを学ぶってこんなに楽しいものなんだ」ということに改めて気づかされ、自分の勉強に対するモチベーションも以前より上がった気がします。学校生活では、Senior Band (上級生のためのバンド)に参加したり、全校生徒の前でスピーチをしたりと、他にも多くのにチャレンジしました。友達も毎日一人は絶対作ろう！と努力したので、最終的に二か月で一〇〇人の友達を作ることができました。

学校行事もSwimming

Carnival (水泳イベント) Athletic Day

(陸上競技イベント) Retreat (キャンプ)と

二か月間で三つも参加することができ、本当に充実した Loreto ライフを送ることができました。受験前の春休みだったので、今回の短期留学に行くことを迷った時期もありましたが、さまざまな経験を通して自分を見つめなおすことができ、将来の夢も変わり、良い意味で自分の人生観も変わりました。 Loreto College という素晴らしい学校に通えて本当に良かったです。

高等部一年 K・Sさん

Niagara Christian Community of Schools というカナダの学校で勉強しました。歴史の授業では、カナダの先住民や国の成り立ち、第一次世界大戦、世界恐慌などカナダの歴史を学びました。日本では第一次世界大戦については詳しく習っていなかったのですが非常に興味深かったです。音楽の授業では音楽理論を習ったり、合奏のためにトロンボーンの練習をしたりしました。音楽理論では中2の時の音楽で習ったことや、ハ

ンドベル部での知識が役立つことが多々ありました。トロンボーンは全くの初心者でしたが、クラスメイトに教えてもらい、演奏できるようになりました。留学生が圧倒的に多く、中国、香港出身の留学生とは寮生活をともにして良いコミュニケーションをとることができました。大抵、考えながら英語を話していましたが、たまにすらすと話すことができるようになります。それは成長した点ではないかと思いません。ナイジェリア人のルームメイトとは

初めのころはよく話しかけていたのですが、あまり会話が続かないうえ、生活習慣もだいぶ違って、ほとんど話さない時期がありました。しかし友達への助けもあって、帰国前にはまたよい関係になることができました。



一緒に留学したKさんと先生方から修了証をいただきました



寮の部屋



お昼休みのイベントで日本の紹介



冬のナイアガラの滝

短期留学協定校

- Pella Christian High School (アメリカ・アイオワ州)
- Niagara Christian Community of Schools (カナダ・オンタリオ州)
- Great Lakes Christian High School (カナダ・オンタリオ州)
- Toorak College (オーストラリア・メルボルン近郊)
- Loreto College (オーストラリア・メルボルン近郊)
- (2015年度より) Lourdes Hill College (オーストラリア・ブリスベン)

二〇一四年度美術展

図工科 関 隆弘

二〇一五年二月一日・十一日の二日間を会期に小学部の美術展があり、小学部の体育館を会場に、全校の子どもたちが図工科で制作した作品約一〇〇〇点(平面作品・立体作品がほぼ半々)を展示しました。十一日は一般公開され、たくさんの方に鑑賞していただきました。子どもたちそれぞれの思いが、色や形となって表現され会場全体を包みました。

会期前、二日間の主に放課後を使い、小学部の教職員総出で準備をします。まず、会場となる体育館に展示用の物品を搬入し、図工科で考えたレイアウトに従って、会場

の設営をします。いざ展示台やパーテーションを並べてみるも、しつくりこない時は、やり直すこともあります。みなさん協力的です。立体作品用の展示台には全てお揃いの紺色の布をかけ、見た目の統一感を出します。主役となる子どもの作品は、図工室からクラスごとに、子どもたち自らが手に持って体育館に搬入します。体育館は地下二階にありますので、作品を持つての移動は大変ですが、どの子も頑張つて運び、決められた場所に展示します。平面作品は、展示用のケースに入れてから、壁面に教職員が展示します。数があるので大変ですが、小さな子どもにも鑑賞しやすい高さになるよう心がけます。作品展示以外に、受付の

設営や作品のキャプション付け、授業風景の写真をプロジェクトで映すための準備などを併せてします。

ここまで準備できれば、あとは会期初日をむかえるだけです。実際は違います。欠席や、時間配分の甘さなどで遅れていたりと、納得がいくまで丁寧な、より良いものと思う子どもが多く、搬入日に展示する作品が未完成の子どもがいるのです。搬入日には搬入だけをするようにさせたいのですが、そうはいかず、休み時間などにひたすら最後の仕上げに動します。それでも間に合わず、会期初日の朝、必死に制作する子どもが、図工室には毎年必ずいます。

図工科では、多感な時期にある子どもたちが、造形活動を楽しみ自らの表現を模索することで、「想像力」を育み、「創造力」が形成されればと思つて取り組んでおります。美術展もその一端を担っている大切な行事のひとつです。これまで以上に大切に

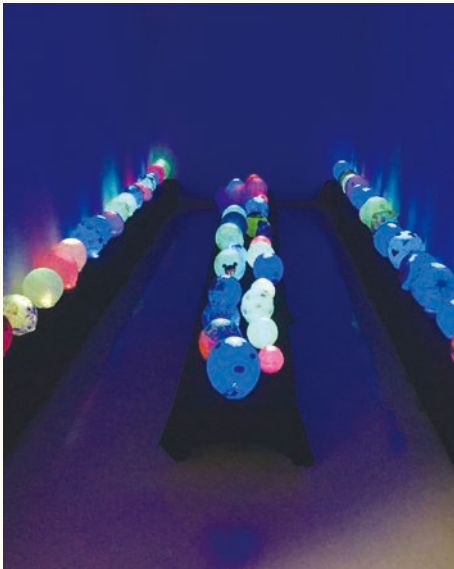
し、発展させていければと思っております。今年度の美術展は二〇一六年二月十一日・十二日に開催されます。ぜひご覧いただき、ご指導をいただければ幸いです。よろしくお願ひいたします。

〜児童の日記より〜(三年生)

今日、図工の授業はありませんでした。なぜかという、今日は美術展だからです。三時間目に見にいきました。そうしたら、ちょうどお母さまがいて、「○○ちゃんの作品はどれ、一緒に写真をとりますよ。」と言われてとりました。また、お母さまが、「とっても上手にとれたわ。それにしても、○○ちゃんの自画像も、上手に描けているわ。」と言われたので、「ありがとう。」とわたしは、はさかしそうに言いました。美術展見学の楽しい時間はあっという間に過ぎました。



1・2年生共同作品「かえでのほっぺ」



6年生共同作品「ひかり・ひかり」



会場風景



後援会会長就任・退任にあたって

誇りに思える場所



この度、一四年にわたり後援会活動をお支えくださった金子会長の後任として、学院からのご推薦並びに役員会での承認を賜り、後援会会長の大役を仰せつかりました小泉と申します。

精一杯向き合いたいと思いつつも、振り返るとあつという間に感じる子育てのさなか、娘が東洋英和という場所ではか享受できない豊かな時間を過ごしていることにいつも心から感謝を覚えます。学院の伝統また後援会先輩諸兄のご活躍からも甚だ未

熟であることに不安は尽きませんが、皆様方のご指導を賜りつつ、後援会を継続して意義ある組織とすべく誠心誠意努めてまいる所存でございます。皆様方には後援会に対するこれまでのご理解とご協力への感謝と共に、変わらぬご支援をお願い申し上げます。

学院後援会は、敬神奉仕の精神のもと、教育上の諸施設、教職員皆様の福利厚生、「東洋英和楓の会」の発展、その他必要となる諸事項に対して教育後援をすることを目的としています。私は、そうした目的は

後援会会長 小泉 光人

また、それぞれが「卒業」してからも変わらずに、本学院が「誇りに思える場所」となり続けるよう、定められた目標でもあると理解してまいりました。在校生と同窓生の交流、教職員の皆様とご父兄、並びにご父兄同士のつながりを大切にすることの後援会の活動が、神に愛され友と師と充実した毎日を過ごす東洋英和での時間が娘たちだけだけでなく、本学院に携わる全ての人にかけてくえのない安心を紡いでいく一助となりますことを願い、就任の挨拶とさせていただきます。

The best is yet to be.



平成八年の長女に始まり三人の娘

が幼稚園から学院とのご縁をいただき、二〇年という歳月が積み重ねられました。この間、親と子が共に成長させていただき、娘たちにとっては掛替えない友と恩師との絆を得た母校、私共にとつては手探りながら懸命に子育てをした母校がこの東洋英和となりました。一四年に渡り後援会役員のお役を賜り、特に会長在任中は発足からの目的であります楓基金への助成に加え「学院」と家庭は娘たちを共に育てるパートナーで

前後援会会長 金子 栄一

ある」という認識のもと、両者の信頼と協力をさらに深める絆作りと、「東洋英和に縁を持つ全ての仲間の結束」を標榜する楓の会への支援を後援会活動の両輪に置き事業を進めさせていただきました。手付かずの課題も多く汗顔の至りですが、学院は堅実な歩みの中、一貫教育を英和の聖地「六本木」と言う悲願に向けて来たるべき六本木再開発にも取り組む事を決められました。学院を取り巻く環境は決して楽観できる状況ばかりではないとは思いますが、バトンをお渡しする新会長小泉氏は豊富な経験に加え

情熱に溢れた方です。必ずや学院を支え益々魅力のある後援会を築き導いていただけると信じております。「The best is yet to be」最上の物を求め、敬神奉仕の種を時き続けて進む学院と後援会が益々強固な連携を深め発展される事を願う次第です。最後に長年に亘りご指導をいただきました学院の諸先生方、法人事務局の皆様、そしてさまざまな後援会活動を支えご協力をいただきました会員の皆様、ご一緒に後援会諸行事を進めていただきました常任役員の皆様にご心から感謝申し上げます。ごきげんようさようなら。

後援会役員会・総会 七月三日(金)

二〇一五年度後援会役員会・総会がANAインターコンチネンタルホテル東京にて開催され、出席者数は学院側も含め約四四〇名でした。

役員会では、①役員改選案の承認と新役員紹介 ②常任役員退任と新常任役員就任 ③二〇一四年度収支決算 ④二〇一五年度収支予算案 ⑤後援会員が子女卒業後、東洋英和楓の会へ継続加入することを容易にするための方策実施を要望する件 について審議が行われ、全て承認されました。

総会では役員会審議事項の報告、退任常任役員への感謝状・記念品の贈呈などが行われ、その後学院各代表者より現状報告がありました。懇親会では、和やかな歓談の時を持ちました。



【後援会常任役員】

会長	小泉 光人 (新任)	会計監事	牧 健太郎 (新任)
副会長	金子 栄一 (退任)		樺 本 健夫 (退任)
	小林 宏弘 (継続)		
	林 明康 (新任)		
	村松 浩功 (新任)		
	後藤 人造 (退任)		
	坂本 秀昌 (退任)		
	小井 人彦 (退任)		
	小松 森井 (退任)		
	後坂 小坪 (退任)		



「学院資料・村岡花子文庫展示コーナー」開設に寄せて

ごあいさつ

村岡 恵理（高等部一九八六年卒）

在学中の私は母校の歴史についてほとんど知りませんでした。自分自身の今と将来を考えるだけで精一杯だったように思います。それでもミス・カートメル、ミス・ブラックモア、ミス・クレイグという宣教師の方々のお名前だけは記憶の片隅に残っていました。

村岡花子の生涯を調べるために、史料室に通い始めたのは卒業から十数年が経った頃でした。本部・大学院棟の地下二階にある史料室は、学



左：村岡美枝氏 右：村岡恵理氏

院の長い歴史を思うと意外なほどに小さな部屋でしたが、私にとってはまさに宝庫でした。写真や資料から、聞き覚えのある先生方の姿がリアリティを持って浮かび上がり、当時の教育課程、寄宿舎生活の様子を詳しく知ることができました。五〇年、一〇〇年、二一〇年という節目に編まれた年史にもだけ助けられたかわかりませんが、花子は東洋英和の寄宿舎で一〇年間、山梨英和の教師時代を含めれば一五年間にわたり英和に身を浸しています。そこで翻訳家としての素養のみならず、厳しい時代を生き抜く精神が養われました。『赤毛のアン』の翻訳は、英和の教育——カナダ人婦人宣教師の願いの結実だと思ひ至りました。

この度、今まで家族で守ってきた花子の蔵書や資料を学院に寄贈させていただきました。紙や本は年月と共に劣化が進み、個人の保管には限界があります。私たちの思いを受け入れ、素晴らしい空間を準備してくださいました。学院に感謝申し上げます。新しい展示コーナーが花子を通して、英和の二二〇年の歩み、宣教師の先生方の信念、強く雄々しく生きた女性たちの姿を内外に伝えるものとなりますよう心から願っています。



東洋英和の卒業生であり、翻訳家、児童文学者である村岡花子の資料が昨年度末に村岡家から寄贈されました。皆様にも広く村岡花子の業績に触れていただくべく、六本木校地の本部・大学院棟の一階の展示コーナーを全面改装し、花子晩年の書斎の再現を行い、名称も新たに「学院資料・村岡花子文庫展示コーナー」としました。そのオープニングセレモニーを、二〇一五年四月一四日（火）に行いました。お孫様の村岡美枝、恵理姉妹を始めとする村岡家の方々、柳原白蓮のお孫様の宮崎ご夫妻、カナダ大使館関係の方々

などのご来賓をお迎えし、開設記念礼拝ののちにテープカットにより展示コーナーがお披露目となり、皆様に見学をしていただきました。その後の感謝の集いでは深町正信院長から村岡家に感謝状が贈呈され、村岡恵理様よりご挨拶をいただきました。学院資料、村岡花子の資料をおして、東洋英和が今まで培ってきた精神や教育理念を肌で感じ取り、積み重ねてきた歴史の重みをしっかりと受け止め、良き伝統を未来に向けて継承していく一助となればと願っております。是非ご見学ください。

利用案内

展示場所 六本木校地 本部・大学院棟 1階
 公開時間 日曜・祝日・長期休暇中以外の
 9:00～20:00（土曜日は～19:00）
 入館料 無料
 ＊お手洗いはご利用いただけません。
 ＊団体で見学の場合は予めお知らせください。
 法人事務局 史料室 TEL：03-3583-3166

生涯学習センター特別講座 「中東の『いま』を知る」が開催されました

四月一七日、二四日と二週にわたり、池田明史大学学長を講師に迎え、生涯学習センター主催の特別講座「中東の『いま』を知る」を六本木校地にて開催しました。

第一回目のテーマは『イスラーム国（IS）台頭の意味するもの』。石油を巡る争いや社会の近代化など、さまざまな要因でISが台頭していくことになった過程が解り易く解説されました。ISによる凄惨な日本人質殺害事件は記憶に新しく、参加された方々は熱心にメモを取って聴講されており、この問題への関心の高さを伺うことができました。

第二回目は『アラブの春』は春だった



「たか？」中東大変動の背景と構造」がテーマ。アラブ諸国で次々に起きた反政府的騒乱について、非産油国、共和主義政体など、具体的な共通点を挙げて、原因の解説がなされました。いずれも社会に充満する政治的不満が「火種」となり、ICT（情報通信技術）の発達「風」となり、火が燃え上がるように騒乱へと繋がったことに着眼し、安価な大量の石油を前提に設計された現代社会の行く末を先駆的に提示しているのが「アラブの春」ではなからうか、と日本で生活する私たちに對して、問題提起がなされました。

どちらの講座も、終了直前まで受講生からの質疑応答を受け、活発なやり取りがなされました。第一回、第二回と連続で参加くださった方も多数いらっしゃいました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。



史料室レター

No.17

村岡花子文庫資料

受け入れのめざすところ

一〇頁でもお知らせしていますように、村岡花子さんの資料が学院に移管されてきています。

第一回は三月二四日、書斎の家具の他、段ボール箱三十一箱が届き、さっそく改装なった学院資料・村岡花子文庫展示コーナーにて紹介され始めました。箱の内容は、さまざまな『赤毛のアン』シリーズを始め、多くの翻訳作品、著作などの他、こよりでとじられた『赤毛のアン』の翻訳原稿などでした。第二回と第三回は六月に、おもに花子さんと交流のあった女流文学者の著作群、そしてたくさん洋書が届きました。学院に移管された意義を三つ挙げると、その第一は、貴重な資料類をできるだけ良い状態で保管すること、第二は縁の深い母校にて、学院関係者を始めとする多くの方に広く公開し、村岡花子さんを身近に感じていただくこと。そして第三に大切なのはきちんと目録を取り、資料の全体を把握して学院史料室が今後の村岡花子研究の拠点となることです。



整理を待つ収蔵庫の段ボール箱群
(6月撮影)

目録づくりは、今まで村岡家にあつては「おばあちゃまのご本」として長年本棚に納められていたものや「おばあちゃまのお手紙」としてお茶箱にしまわれていたものが「資料」として活用されるための作業です。一点一点をデータにとれば、今後花子さんの幅広い活躍とお仕事を調査し研究するための基礎になります。作業は経験豊かな史料室委員が中心となつて始められ、八月には、高等部を卒業した大学生たちも手伝つていただきました。学院への寄贈を決定された村岡家のお気持を大切にしながら村岡花子資料を学院の宝として大事に扱っていきたくらいと願い、環境を整えています。

英和の日々

2015年4月～2015年7月

東洋英和幼稚園



四季の森公園のジャンボ滑り台

- 入園式 4月10日(金)
九時から四歳児三一名、十一時から三歳児三六名の
新入園児を迎えました。
- 父母の会 5月9日(土)
学院オルガニスト河野和雄
先生による演奏と講演を聞
きました。
- 歯磨き指導 5月28日(木)
歯科衛生士の岸玲子先生を
お招きし、親子で歯磨きの
実習をしました。
- 母と子の遠足、母と子の
集い 5月29日(金)
四、五歳児は四季の森公園
に出かけ、三歳児は幼稚園
で遊びました。
- 五歳児キャンプ
7月8日(水)～10日(金)
四四名全員が参加し、追分
寮で二泊三日過ごしました。

大学付属かえで幼稚園



3歳児たのしみ会

- 入園式 4月10日(金)
■四歳児親と子の集い
6月22日・29日(月)
お母さま(お父さま)が子
どもたちの遊んでいる様子
や集いを見にいらつしやい
ました。
- 三歳児たのしみ会
7月15日(水)
親子でお店めぐりやダンス
を楽しみました。会の最後
にはホールに集い、讃美歌
を歌いお祈りをし、一学期
を終えました。
- 四歳児五歳児夕涼み会
7月17日(金)
台風のため一日延期になり
ましたが、この日はよい天
気に恵まれ、焼きとうもろ
こし、ヨーヨーつり、ゲー
ム等を楽しみ、夏の夕べを
過ごしました。

小 学 部



1年生ダンス「イツ・ア・スモールワールド(小さな世界)」

- 入学式 4月9日(木)
■春の遠足 4月24日(金)
低学年は新宿御苑、中学年
は都立小金井公園、高学年
は府中郷土の森に行きまし
た。友達との仲を深められ
た一日となりました。
- 運動会 5月23日(土)
どの学年もこの日のために
練習を積み重ね、持ってい
る力の限りを出して頑張り
ました。
- ペンテコステ礼拝
5月27日(水)
日本基督教団鳥居坂教会の
野村稔牧師をお迎えし、「舌
が来た」と題したお話を伺
いました。
- 土曜参観 6月27日(土)
二時間の授業の後、父の会
担当の方が企画されたゲー
ム等をして楽しみました。

中 高 部



高二修学旅行

- 中学部入学式
4月7日(火)
- 高三修養会
5月11日(月)～13日(水)
講師に藤本満先生(インマ
ヌエル高津キリスト教会)
をお迎えし、「原点くたち
かえる場所」をテーマにデ
ィスカッションしました。
- 高二修学旅行
5月11日(月)～15日(金)
長崎を中心に、平和につい
て理解を深めました。長期
間にわたる事前学習の上に、
多くの学びを得ました。
- 中1オリエンテーション
5月12日(火)～14日(木)
清里清泉寮にて、新入生た
ちと一緒に過ごし、親睦を
深めながら「敬神奉仕」や
聖書について理解を深めま
した。

大 学 ・ 大 学 院



オリエンテーション合宿

- 〔大学〕
■入学式 4月2日(木)
六本木校地の新マーガレッ
ト・クレイグ記念講堂にて、
学院の伝統を感じる厳かな
雰囲気の中で入学を祝福し
ました。
- オリエンテーション合宿
5月22日(金)・23日(土)
天候に恵まれ、一年生同士、
また先輩との交流を深め樂
しい時を過ごしました。
- 〔大学院〕
■大使連続講演会
前駐米特命全權大使
藤崎一郎氏 4月18日(土)
駐日ホンデュラス大使
マルレーネ・ビジェラ・デ・
タルボット氏 6月27日(土)
■人間科学特別講演会
「現代型うつ病の理解と対応」
5月16日(土)

NHK デザインセンター
映像デザイン部

いわくら ようこ
岩倉 暢子 さん

1997 年高等部卒



「あまちゃん」で一瞬出てきたキャラクター「見つけておじいちゃん」と私▶

いまにつながった小学部時代

小学部から高等部まで英和で学び、「あまちゃん」や「まれ」などの人気ドラマを含め、NHK で番組美術を担当されている岩倉さん。

「絵を描くこと」が好きになり、美術の仕事につながった小学部生時代のことを振り返り、語っていただきました。

「美術」の仕事をするとい九歳で決めたとき、根っこには小学部での美術の授業がありました。二五年前（四半世紀！）ものが今につながっているなんてオソロシイ。小学生のときから好きなことを続け、仕事にし、歳をとったようなものですが、小学部から高等部まで受験がなかったおかげで好きな絵を続けることができました。

私の仕事はテレビの美術監督です。ドラマ番組では台本に登場する人物が何を食べ、どんな住まいや職場で暮らしているのか、なにを着ているかを考え、映像化するのが仕事です。さらにセットに飾るグラフィック、番組のロゴ、CG など設計し、準備し、収録にも立ち会って計画通り撮影できているかチェックするなどしています。

写生大会で

小学部に入る前から絵を描くのが好きで、特技を生かして遠足や社会科見学のおりに表紙を描いたこともあるのですが、五・六年生のときに行われた新宿御苑での写生大会で衝撃を受けました。自分が観て描いたものと、同級生たちが描いたものがまるで「違う」のです。現物が残っていないのが残念ですが、私の絵はぼつてりクレパスを塗り重ねた緑色

の団子が連なる、インパクトだけはある松で、みんなはクレパスを細く淡く使って松のツンツンした葉をうまく表現した写実的なものでした。同じ松を観て描いているはずなのに、どうして違うのか。さらに、私の絵はみんなに「受けなかった」。いつもマンガを描くと褒めてくれるのに、どうして。「なんか変だよ」と容赦ありません。見ているものと絵が違ったところでズレたのか。私の目が手か、頭か。完全に混乱しました。

山口先生

その私に「パンチがあるね！」と唯一ポジティブなコメントをくれたのが、山口孝子先生でした。画家としては美しく繊細な赤を使ってバリのワヤン（影絵芝居）を画題にされていました。



小学部3年生の給食風景。左端は当時の小学部長・梅沢先生、右から3番目のショートカットが私、一番右は、いま小学部3年生のお母さんとなった高田梨花(旧姓・竹村)さん

写生大会では何をどう描いたってよかったのでしょうか。それでも「違っていてもよいのだ」と山口先生は救いの手を差し伸べてくださった。いま思えば、「写生」なのだから見たままを描かなければならないのに、自分の解釈を過剰に入れて松を描いていました。そのズレもやんわりと指摘してくださったような気がします。でも先生のことばのおかげで私は絵を描くことを嫌いにならなかった。

そもそも「受ける絵を描きたい」という小学生にしては変な欲望を持っていることにも気づかせてくださり、それが、「自分が見ているものと、他人が見ている（見たい）ものは違う」という当たり前の視点に導いてくれました。この違いをどうコントロールし、伝えるのが、いまの仕事に大きく結びついています。

また、ずっと後になります。みんなが作ったものと自分の描いたものをミックスして、新しいものにするのも面白いと思えるようになります。自分発信のアイデアに固執しないのです。これも、写生大会で私の中に「他者の目」が入ってきたからだだと思います。というのも、二枚目ではみんなが描いていた絵を真似て同じ松をもう一度描いてみました。これも受けなかった。でもまた

新たな発見をしました。「私は絵を描くのがけっこう早い」そして「間違えたら、やりなおせばいい」。別のアイデアを試せばいいのです。神は逃れる道を備えてくださるのです（ちよっと解釈間違っているけど）。これらの気づきを小学生時代にプレゼントされたおかげで、絵を使って何かを人に伝える仕事を続けられているのでしょうか。山口先生も驚いていらっしやるかもしれません。



高等部三年生の球技会でのクラス全員集合の大切な写真。担任は石澤先生(現・中学部長)。前列左端のショートカットが私。ルーズソックスが懐かしい&恥ずかしい!

■いわくら ようこ/NHK デザインセンター映像デザイン部所属。古典芸能から音楽、ドラマまで幅広く番組美術を担当。2011年「その街のこども」(放送文化基金賞 本賞)、2013年「あまちゃん」(伊藤薫朝賞 本賞、映像技術賞 美術、日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー準大賞 他)、2015年「まれ」を担当。現在は2016年1月放送のドラマを準備中。

聖書の三言葉

「空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値のあるものではないか。」

マタイによる福音書 六章二六節

我が家の愛犬は動物保護団体から引き取りました。海岸をさまざまに歩いてたところを保健所に捕獲されたのです。汚れてやせ細って何の動物かわからないような状態だったところを殺処分直前に動物保護団体によってレスキューされました。左目は失明して心臓に障がいがあります。恐らく「パピーミル」をさせられ、捨てられたのか脱走したのではないかと思われまます。



吉岡 淳(ジュン)&エマ [右:保護犬]

そんな彼女、ともかく人が大好きで、散歩の途中で近所の方々やお店のスタッフにあいさつをしまわります。呼ばれればどんな人にも喜んで走り寄ります。人間の勝手に過酷な状況を生きてきたはずですが、けれどもどこまでも人を信頼して、人が大好きです。いつも楽しげに尻尾を振って一瞬一瞬を生き抜いています。その真摯な姿を見るたびにイエスさまの声が響きます。「これほど神さまに全てを任せて安心して生きているかい?」と。

青山学院女子短期大学宗教主任
日本基督教団吉祥寺教会教師
(一九七九年 高等部卒業)

吉岡 康子

訃報

—心より哀悼の意を表します—

張替 謙氏 元小学部教諭 二〇一四年一〇月五日
栗原 正己氏 元中高校教諭等 二〇一五年七月六日

学院 NEWS ④

学院「校歌」楽譜の改訂・発刊とCD作成について

「楓園」七七号で校歌の「楽譜」に関して編集上の改訂を行う事をお知らせしました。これは卒業生(一九六〇年卒)の御指摘(一九三四年の山田耕筈の原譜と、一九五六年頃音楽科教諭富岡正男が中高生の唄い易さを考慮し「作曲者の了解を得て、調を変えるなどの変更を加えた現在使用の楽譜が存在する)を参考に、深町院長が設置した「校歌検討会」の結論によるものです。新編集の楽譜では歴史的順序に従

い、山田耕筈の原譜(歌詞は生徒用に現代仮名遣いに直す)と、現在使用の楽譜を併せ掲載します。また同時に中高合唱部による原譜と現在の楽譜の、各歌唱をCDに収録し、併せて小学部の「東洋英和の歌」、東洋英和幼稚園の「おともだち」、大学付属かえで幼稚園の「かえでの子ども」、「東洋英和女学院大学歌」も収録し、九月以降に完成の予定です。



学院 NEWS ③

学事顧問・評議員の 村上陽一郎 前大学学長が瑞宝中綬章を受章



村上陽一郎前大学学長(現学院学事顧問・評議員)が、平成二十七年春の叙勲において瑞宝中綬章を受章しました。益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

村上陽一郎氏略歴
1936年東京生まれ。東京大学教養学部、大学院で科学史・科学哲学を学ぶ。上智大学理工学部助教授、東京大学教養学部助教授、教授、同先端科学技術研究センター教授、センター長、国際基督教大学教授、東京理科大学教授を経て、2008年より東洋英和女学院評議員に就任、2010年4月より2014年3月まで大学学長を歴任。東京大学・国際基督教大学名誉教授。主な著書は、『あらためて学問のすすめ』(河出書房新社)『人間にとって科学とは何か』(新潮選書)『安全と安心の科学』(集英社新書)など多数。

今号は「おたよりコーナー TOYO Wa-Wa」はお休みさせていただきます。

●お便りお待ちしております! 〒106-8507 港区六本木5-14-40 東洋英和女学院法人事務局総務企画部総務課 まで。E-mail: koho@toyoeiwa.ac.jp でもお待ちしております。



日本では「兎の餅つき」と見られているが、世界各地でさまざまな形に見られている。中国では「カニ」、ヨーロッパでは「女の人の横顔」。他にも調べてみると、いろいろなものがあり、それぞれに昔話が伝わっているものもある。

表題の質問は小さな子どもさんから聞かれたものです。今まで聞かれた中でも特に答えるのに困った質問です。日本では古くから「月には兎がいる」といわれてきました。それは月の表面の模様由来します。これが日本では兎に見立てられてきました。外国でもさまざまな形に見られていて、どれもなるほどと思わせるものばかりです。この模様の黒い部分は「海」と呼ばれています。昔の天文学者が望遠鏡で月を見て「あの黒い部分には海があるに違いない」と考えて、「雨の海」「静かの海」など名前を付けました。でも実際には

どうして月にウサギがいるの？

水はありません。大昔に火山が爆発して黒い溶岩で覆われたと考えられていて、比較的平らな部分です。

でも、これだけでは子どもさんの質問の答えにはなっていない。その答えは：日本の昔話集「今昔物語」の中にありました。

昔、インドの森の中に住んでいた兎と猿と狐は「自分たちは他の者の役にたつように生きていこう」といつも話し合っていました。これを山の上から見ていた帝釈天は、この気持ちが本物であるかどうか確かめてみようと思いました。帝釈天はお爺さんに化けると、「お腹がぺこぺこなので、助けてほしい」と三匹に頼みました。猿と狐は食べ物を見つけてきましたが、兎はどうしても見つけれませんでした。そこで兎は、自分の体を食べてくださいと、自ら焚き火の中に身を投げたのです。帝釈天はこの優しい兎の気持ちを世界中に知らせるため、焼け死んでしまった兎の体を月の中に移したのだそうです。兎の模様の周りがモヤモヤと、かすんで見えますが、これは兎が焼けてしまった焚き火の煙のあとだそうです。

お知らせ

楓の会主催 秋の芸術公演(チャリティーコンサート)のご案内

日時：11月14日(土)14:00開演 (12:30受付開始)

場所：中高部 新マーガレット・クレイグ記念講堂

出演：ジェラルド・ブーレ(ヴァイオリン)、川島余里(チェンバロ)、東京ハルモニア室内オーケストラ



東京ハルモニア室内オーケストラ



フランス・ヴァイオリン界の空室
ジェラルド・ブーレ
©Mamoru Matsui

曲目：A. ヴィヴァルディ 合奏協奏曲「四季」作品 8、1〜4 他 ※曲目は変更する場合があります。

チケット：4000円 主催：東洋英和楓の会 協賛：東洋英和 福島子ども支援プロジェクト

【申込方法】下記事項を明記の上、メールにてお申込みください。

●名前 ●学院との関係 ●電話番号 ●人数(原則4名まで)
kaedenokai@toyoeiwa.ac.jp

電話・FAXでのお申し込みも受け付けます。

TEL 03-3583-3354 FAX 03-3584-5227

電話受付 9:00 ~ 17:00 (土日・祝日を除く)

【申込受付期間】2015年10月5日(月) ~ 11月4日(水)

当日受付でお名前と申込人数を確認させていただいたのち、代金と引き換えにチケットをお渡しします。

※お申し込みは楓の会会員に限ります。定員になり次第、締め切らせていただきます。

東洋英和女学院 学院報 楓園 第78号

発行日：2015年9月15日

編集：広報委員会

発行：学校法人 東洋英和女学院 東京都港区六本木 5-14-40 Tel: 03-3583-3325

メールアドレス: koho@toyoeiwa.ac.jp ホームページ: http://www.toyoeiwa.ac.jp

同窓会より

●同窓会総会報告

6月6日(土)は梅雨入り前の抜けるような青空に恵まれ、各会同窓会に続いて学院同窓会総会が持たれました。網中彰子牧師(高等部1987年卒)の「愛の業」と題しての説教で心新たにされる礼拝を捧げた後に、議事へと進み感謝の内にすべてが承認されました。特筆すべきこととして、今年の総会を持って休会となるかえで会より記念品の「同窓会の旗」-楓の校章の下に聖句、また6会の名前が綴られている-が贈呈されました。

議事後はお楽しみ、姉妹校静岡岡英和・山梨英和をお招きしての催事を行いました。始めに深町院長より三校のルーツを語っていただき宣教師の尊い働きに想いを馳せ、続いてスライドショーによる学校紹介で創立者の写真や校訓などが映されました。上映後には、三校の卒業生が2名ずつ登壇しトークショーへ。司会者の櫻井彩子さん(大学2003年卒)の素晴らしい進行で各校の特色が引き出された「我が母校が一番！」の話が続き、中でも盛り上がったのが制服自慢でした。最後に三校の校歌を順に歌い讃美歌312番をもって閉会となり、姉妹校の絆を再確認した恵まれたひと時を感謝しつつ、お茶の会へと移りました。



三姉妹全員集合